

たくさんの人からの支援に感謝——。

人から受けた親切を
また別の人へつなぐ。



三芳おなかま
子ども食堂



三芳おなかま子ども食堂 代表
飯塚 結花 さん(46)

ができました」という嬉しいメッセージもあったと言います。5・6月には、町内飲食店への応援も込めて、店が作ったお弁当をおなかま子ども食堂が買い上げ、コロナの影響を受けた家庭に渡す「三芳おなかまスマイル弁当」を企画。ドライブスルー形式で実施し、プロの作った美味しいお弁当と笑顔を子どもたちへ届けました。

「ペイフォワード」

「ペイフォワード」という言葉をご存知でしょうか。「人から受けた親切を、また別の人に新しい親切でつないでいく」という意味で、まさに「三芳おなかま子ども食堂」の活動を象徴するような言葉です。

「子ども食堂の運営にボランティアの力は欠かせません。企業や農家、NPO、思いに賛同して日本全国遠方から物資を送ってくださる方々、本当にたくさんの方に支援していただいていることに感謝です」と飯塚さん。今日も彼女の周りには、「ありがたい」「飛び交っています」



三芳おなかま子ども食堂ブログ



①野菜やフルーツ、お菓子などが詰まったおなかまBOXにメッセージを添えて。②どこにいても目立つ受付担当。③ドライブスルーでおなかまスマイル弁当をお渡し。

誰でも気軽に参加できる子ども食堂として、2017年にオープンした「三芳おなかま子ども食堂」。毎回100人前後が集まり食卓を囲んできましたが、新型コロナウイルスの影響により3月から中止を余儀なくされました。

おなかまBOXお届け便

「子ども食堂が中止の間も、食材やおやつなどが多方面から支援として届いていました。それをコロナ禍で困っている人に

配ろうと思い、「子育て応援おなかまBOXお届け便」を始めました。そう語るのは、代表の飯塚結花さん(46)。「休校で食費が増加した」など、チェック項目に1つでも該当すれば申し込めるようにして、4・5月で計4回、81世帯に「おなかまBOX」を配りました。

受け取った人からは、たくさん「ありがとう」が。その中には「箱を開けて中身に喜んだ子どもに、困ったときは支え合う気持ちの大切さを教えること

「こちらからも伝えたい。感謝の想い——」。

利用者スタッフに
贈る、ありがとう。



み

よし台にある「介護ステーションこころ」。高齢者や障がい者の自宅を介護ヘルパーが訪問して、食事や入浴、排泄、掃除などを行う「訪問介護」の事業所です。代表を務めるのは、富岡恭子さん(66)。父親の認知症をきっかけに介護の世界へ転身し、2004年12月に「介護ステーションこころ」を開所しました。新型コロナが流行する中で

も、支援を待っている利用者のもとへ出掛けていきます。

工夫した感染防止策

「新型コロナウイルスの影響で一番困ったのは、マスクや手袋などの衛生用品不足です」と富岡さん。スタッフ間で店の在庫状況を共有し、買いつないできたと言います。

また、レインコートを着て入浴介助をしたり、花粉症用ゴーグルを装着して受診に付き添うなど、感染防止策もスタッフで工夫。利用者にもマスクの着用をお願いし、お互いが感染しないように気をつけて、危機を乗り越えてきました。

受け入れてくれる 気持ちに感謝

仕事柄、利用者やご家族からいただくことが多い「ありがとう」。しかし、「感謝の気持ちはむしろ私たちが伝えたいんです」と富岡さんは話します。

介護ステーション
こころ
DATE
住所：三芳町みよし台 7-1
電話：049-258-7133



介護ステーションこころ 代表
富岡 恭子 さん(66)



【写真】代表の富岡さん(前列中央)が厚い信頼を寄せる「介護ステーションこころ」のスタッフ。

